

## 第41回波浪研究会(大洗観測会)に参加して

神頭 一郎(千葉)

本年2月3～4日に1泊2日で開催された波浪研究会恒例の大洗観測会について紹介します。その前に波浪研究会の活動について簡単に紹介すると、例会が概ね年3回開催され、そのうち2～3月頃の例会が大洗観測会となります。普段の例会ではベテラン講師の指導の下、「台風〇〇号による××沖の波浪」、「20XX年YY月ZZ日のハワイ沖の波の推定」など、毎回異なったテーマを取り上げ、地上天気図(ASAS)から気圧傾度、吹続時間、吹走距離等を読み取り、SMB法(波浪推算法:第2次世界大戦のノルマンディー上陸作戦のために開発)を用いて、波浪の到達予想時間、波高等を解析します。大洗観測会では、これら作業に加え、実際に波浪を目視し、有義波やうねりの波高、周期などを実地観測するなど、正に波浪解析の実践的訓練を行います。

今年の観測会には、和田・高野講師の他、計8名が参加しました。参加者は海に關係の深い職業の者、ヨット、ダイビング愛好者、懇親会の名物アンコウ鍋に惹かれた者など様々です。当日は大洗駅に集合後、宿泊先兼解析作業場となる民宿白浜荘へ移動。そこから徒歩で大洗海岸付近の観測ポイント(写真:下)へ移動し、講師の指導を受けながら各自ストップウォッチや双眼鏡を片手に波浪観測。その後、白浜荘へ戻り、数日分の地上天気図をもとに自ら観測した波浪の発生原因を解析すると共に、翌日の波浪を予測。最後に講師から天気図による解析の解答(写真:下)、モデルを用いた波浪予測等を講義していただき、予定していた観測会の実質的



な作業を終了しました。それからお待ちかねの大洗名物アンコウ鍋を囲んだ懇親会へ突入(写真:上)。今年は幸運にも広い宴会場が貸し切り状態。地酒「月の井」とともにアンコウ鍋をつつきながら、心ゆくまで気象談義に花を咲かせました。翌日は自由行動ですが、前日の予測結果と実際の波浪を照合する等の作業を終えた後、解散。各自帰路へ。

波浪予測は気象の本流から若干離れたイメージがあり

ますが、実は様々な大気現象と密接な関係にあり、気象予報士として習熟しておくべき重要な分野です。是非、読者の皆さんが来年大洗(アンコウ鍋?)を目指して波浪研究会の例会(観測会)に参加されることを心待ちにします。

